

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
藤本 哲史

法の具体化をめざせ!

第63回県連定期大会

第63期県連大会を6月2日・3日、白浜町にあるホテルシーモアでひらき、県内各支部から301人の代議員中、275人の代議員が参加した。

執行副委員長はじめに、松本貞次・執行副委員長の司会ではじまり、松井資喜・青年部長の発声で解放歌を合唱し、北内ますみ・女性対策部副部長が水平社宣言を朗読した。

はじめに、主催者を代表して藤本哲史・県連執行委員会は「差別をなくす法律をどうすすめるかということとを、この大会で議論をすすめていきたい。「推進法」が施行され、1年半が経過したが、具体的施策がみえない。さらに、あとを絶たない差別事件が、県下で次々と発生している。そ



法の具体化をめざして、ともに奮闘しようと呼ぶ
二階俊博・衆議院議員(自由民主党幹事長)

ズに実現するためには、時間を置く必要はなく、当然のこととして、努力が必要。自民党和歌山県連は、責任をもつて法律に、あるいは党内の議論で正面からとりくんで成功に移していく。和歌山県はこの問題の先進県なので責任は重い。県全体がその

気になり、末端まで浸透を。党でも徹底できるように努力する。長い道のりではあ

「尊敬すべきもの」と西光の理念をうたう

全女in和歌山

部落解放第63回全国女性集会が5月12日・13日、会館大ホールでひらかれ、全国から979人が集まり、和歌山からは県・各市町村行政、県共闘会議、実行委員会、県連女性部ら183人が参加した。

オープニングセレモニーは「聖者 西光萬吉抄」の歌と「母は闘わん」の手法



熱い想いが会場を包みこんだ

を女性部46人がステージに並び、山本昌代・女性対策部長のナレーションではじまった。「聖者 西光萬吉抄」の歌は、10周年にあたる1979年に西光万吉顕彰事業のひとつとして制作され、作詞は、当時の粉河町室長補佐の保田耕志さん、作曲は、県社会教育課長の北原雄一さん、企画を当時の鈴木正太・打田町長と構成・発表された。山本女性部長は、西光万吉の「人間はいたわべきものではなく、尊敬すべきもの」という理念で、水平社宣言起草し、戦後は「不戦

るが、ここまでできたので、もうひと頑張りしたい。とにかく一緒に頑張りましょう。子どもや孫の時代にまだ、差別が残っていることのないように、大人の責任を果たすため、力を貸してほしい。この問題を早期解決に向かつて全力を尽くすことを互いの誓いにして、「う」と誓い合った。岸本周

平・衆議院議員、門博文・衆議院議員、田岡三千年・新宮市長、井潤誠・白浜町長、池田祐輔・連合和歌山会長、田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長から来賓あいさつをうけ、議事に入った。(詳細は、次号に掲載する)

頑健

先日、大相撲にかかわり倒れた舞鶴市市長の応急処置をしてきた女性に「女性性は土俵を降りて下さい」とアナウンスが流れ「人命よりしきたりか」という非難に相撲協会は「不適切な対応であった」と詫言った。また、同じ頃に宝塚市長が土俵上でのあいさつを拒否されるということも起きています。相撲の土俵の土俵禁制は、これまでも何度も議論を呼んできたが、その都度「しきたり」「伝統」という言葉で切り抜けてきている。今回の舞鶴の件も「臨機応変に対応すれば良かった」「(相撲協会)ということであるが、明らかに女性差別だ」とつたり「神事」「神聖」というコトから女性性を「不浄」とする差別観の表れで、「しきたり」や「伝統」で片づけられない。だから市長が運ばれたあと、土俵に大量の「塩」が撒かれたことも、協会やそれを支持する人が「そういうことではない」と否定しても「キヨメ」そのものの行為なのである▼「浄」「不浄」は議論する余地もなく「優生思想」にも通じる不合理極まりない意識。事実「森羅万象」や「権力(男性)の不都合」を「浄」「不浄」で切り分けてきたにすぎないのだ。私たちは「違い」「個性」を理由に分け隔てされることのない社会の実現に向け、早急に不条理な意識・価値観・システムの変革を実現しなければならない。